

(要約版)

コロナ時代における嗜好品を楽しめる空間創出の試みに関する研究

石原 肇 (近畿大学・地方自治)

1. 研究目的

本研究の対象地である兵庫県伊丹市は兵庫県東部に位置し、市域の面積は約 25.09 km²、人口は 198,138 人 (2020 年 10 月、国勢調査) となっている。周囲は兵庫県尼崎・西宮・宝塚・川西の各市や大阪府豊中・池田両市と接している。2020 年 6 月 19 日、伊丹市が幹事市となり、神戸市、尼崎市、西宮市、芦屋市の 5 市で要請を行った『「伊丹諸白」と「灘の生一本」下り酒が生んだ銘醸地、伊丹と灘五郷』が 2020 年度の日本遺産に認定されている。伊丹市は、中心市街地活性化基本計画策定市であり、従前より様々な地域活性化イベントを実施してきており、ことに「伊丹まちなかバル」は有名で 2009 年から継続開催してきている。しかし、バルイベントは賑わいの創出が目的の一つであり、今般の新型コロナウイルスへの感染症対策の観点から三密の回避を同時に達成していくことは難しいため、「伊丹まちなかバル」の開催は 2020 年春以降中止となっており、また飲食店は大きな打撃を受けてきている。このような中、伊丹市では路上空間を活用して 2021 年 11 月に「伊丹郷町屋台村」が開催された。そこで、本研究では、2021 年に開催された伊丹市の「伊丹郷町屋台村」を題材として、コロナ時代における嗜好品を楽しめる空間の創出について、その取り組みの成果と今後の課題について報告することを目的とする。

2. 研究方法

まず、伊丹市役所に、公共空間を活用した方策の構築プロセス等についてヒアリング調査を行う。つぎに、路上空間を活用したテラスや広場を活用した「伊丹郷町屋台村」に参画する飲食店と参加者へのアンケート調査を実施する。加えて伊丹郷町屋台村実行委員長に運営に関してヒアリング調査を行う。

3. 研究成果

(1) 伊丹市役所へのヒアリング

2021年6月29日に、伊丹市役所を訪問し、本研究で取り上げる「伊丹郷町屋台村」などの地域活性化イベントが行われる伊丹市が管理する道路である「三軒寺前広場」の占用許可の手続きに関して伺った。伊丹市役所では、都市活力部産業振興室まちなかにぎわい課において「三軒寺前広場」を利用する地域活性化イベントに関するノートが置いてあり、個々の地域活性化イベントを所管する担当課がそれに記載することで調整を行っており、過去に開催実績がある場合は、比較的円滑に道路占用の許可が下りるとのことであった。

また、2022年3月23日に、伊丹市役所を再度訪問し、アンケート調査の概要を報告する

とともに、同市の今後の方向性についての見解を伺った。伊丹市では内閣官房に『第3期伊丹市中心市街地活性化基本計画』の認定申請をしており、同計画では「ほこみち（歩行者利便増進道路）」制度等の活用検討を進める等の記載がされているとのことであった。

(2) 「伊丹郷町屋台村」に参画する飲食店と参加者へのアンケート調査等の結果

参加者へのアンケート調査結果から、参加者の多くがコロナ禍での「伊丹郷町屋台村」の開催を好意的に捉え、実際にその憩える空間を楽しんでいることが把握できた。また、参加店へのアンケート調査結果から、「伊丹郷町屋台村」への取組みを積極的に行っていることが把握できた。さらに、実行委員長へのヒアリングにより、コロナ禍で伊丹郷町屋台村実施の発案者、三軒寺前広場の利用、実施に際しての安全面の配慮、今後について等の把握ができた。

4. 考察

伊丹市へのヒアリング結果から、従前から道路である三軒寺前広場を中心市街地活性化のためのイベントで活用してきており、コロナ禍においても同様に活用し、イベントの実施主体が迅速に取り組めるような工夫がされていた。今後もより一層活用していくことを検討していく方向であることが把握できた。

「伊丹郷町屋台村」は、同実行委員会の委員長をはじめ参加店が、コロナ禍から地域が復興していくための先行した取組みと認識し、参加者に楽しんでもらおうという気概をもって臨んでいた。

「伊丹郷町屋台村」への参加者の多くが、コロナ禍での開催を好意的に捉え、実際にその憩える空間を楽しんでいた。このような空間を伊丹市民は享受し、伊丹市以外の来訪者は、他の地域でも同様のイベントの開催を望む傾向にあるといえよう。

5. 結論

伊丹市はコロナ禍以前から道路である三軒寺前広場を中心市街地活性化のためのイベントの開催場所として活用してきた。この蓄積があることが、コロナ禍においても実行委員会が感染者数の推移や緊急事態宣言の発出・解除といった状況を見据えながら「伊丹郷町屋台村」の開催を決定してから迅速に実施に至ったことに寄与しており、嗜好品を楽しめる空間を創出し参加者に提供することができた。また、「伊丹郷町屋台村」が盛会であったのは伊丹市や実行委員会のみならず、その開催を楽しみに待ち、参加し、楽しみを享受している多くの参加者もあって成立している。三者による支え合いのように捉えられる。

2022年3月24日に『第3期伊丹市中心市街地活性化基本計画』が認定され、「「ほこみち（歩行者利便増進道路）」制度等の活用検討を進める等、ウォークブルな公共空間の創出を図り、にぎわいに繋げる。」と記載された。今後は嗜好品を楽しめる空間が常態化することも考えられる。